

**製品名: PKN1 マウスモノクローナル抗体****カタログ番号: AMM81404**

研究使用のみ

**概要**

説明	マウスモノクローナル抗体
宿主	ねずみ
応用	IHC, ICC, ELISA, FC
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	Mouse IgG2b
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウムを含む PBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	IHC 1:200-1:1000, ICC 1:200-1:1000, ELISA 1:5000-1:20000, FC 1:200-1:400
分子量	104kDa

**抗原情報**

遺伝子名	PKN1
別名	DBK; PKN; PAK1; PRK1; PAK-1; PRKCL1; PKN-ALPHA
遺伝子 ID	5585.0
SwissProt ID	Q16512
免疫原	大腸菌で発現したヒト PKN1 (AA: 442-620) の精製された組み換え断片。

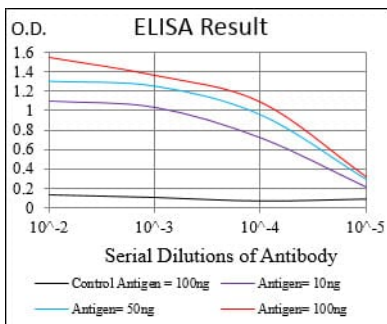
**背景**

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、プロテインキナーゼ C スーパーファミリーに属します。このキナーゼは、低分子 G タンパク質である Rho ファミリーによって活性化され、Rho 依存性シグナル伝達経路を媒介する可能性があります。このキナーゼ

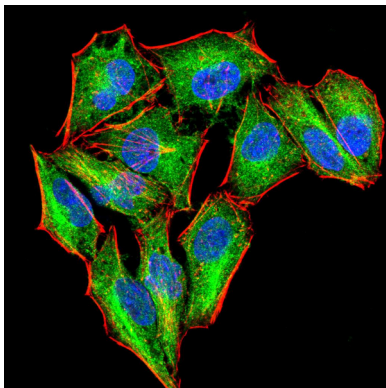
は、リン脂質および限定的なタンパク質分解によって活性化されます。3-ホスホイノシチド依存性プロテインキナーゼ-1 (PDK1/PDK1) は、このキナーゼをリン酸化することが報告されており、アクチン細胞骨格へのインスリンシグナルを媒介する可能性があります。アポトーシス過程において、カスパーゼ-3または関連プロテアーゼによってこのキナーゼがタンパク質分解活性化されることは、アポトーシスに関連するシグナル伝達における役割を示唆しています。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが観察されています。

## 研究分野

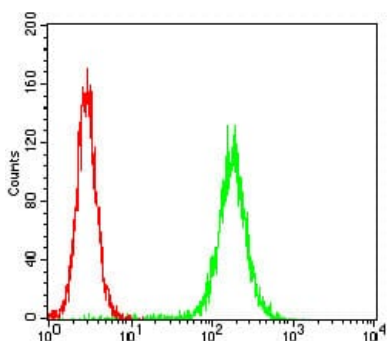
## 画像データ



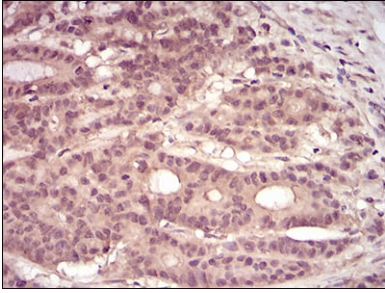
黒線: コントロール抗原 (100 ng); 紫線: 抗原 (10 ng); 青線: 抗原 (50 ng); 赤線: 抗原 (100 ng);



PKN1 マウス mAb (緑) を用いた HeLa 細胞の免疫蛍光染色。青: DRAQ5 蛍光 DNA 色素。赤: Alexa Fluor-555 ファロイジンで標識されたアクチンフィラメント。



PKN1 マウス mAb (緑) とネガティブコントロール (赤) を使用した HeLa 細胞のフローサイトメトリー分析。



PKN1 マウス mAb と DAB 染色を使用したパラフィン包埋ヒト大腸癌組織の免疫組織化学分析。